

第 27 回地方公務員共済組合連合会資金運用委員会議事要旨

1. 日 時：平成 30 年 6 月 19 日（火） 16:30～18:00
2. 場 所：地方公務員共済組合連合会 特別会議室
3. 出席した委員：
 - ・若杉座長 ・川北委員 ・佐藤委員 ・高山委員 ・竹原委員
 - ・蜂須賀委員
4. 議 事
 - (1) 基本方針の変更について
 - (2) 投資対象の拡大（プライベート・デット、バンクローンの追加）及び不動産・インフラ投資に係る戦略の取扱いの明確化について（運用対象の多様化（オルタナティブ資産への投資）に係る運用方針の変更）
 - (3) 伝統的資産に係るマネジャー・ストラクチャーの見直しについて
 - (4) 平成 29 年度各積立金の管理及び運用に関する運用報告書
 - (5) 平成 29 年度各積立金のリスク管理の状況
 - (6) 退職等年金給付積立金の基本ポートフォリオの検証について
 - (7) 平成 30 年（4 月～5 月）の資産配分状況について

〈議事の概要〉

- ・事務局から上記議題について資料の説明が行われた。
 - ・その後、意見交換が行われた。
-
- (2) 投資対象の拡大（プライベート・デット、バンクローンの追加）及び不動産・インフラ投資に係る戦略の取扱いの明確化について
 - ローンはオリジネーションする人が一番詳しいというところがあるので、その弊害をなるべく小さくできるような形で運用するとよいと思う。
 - 債券は安全性を重視すると言っているときに、オルタナを債券に区分するというのを、外部に対して、どのように説明していくのか。リスク管理を重視しているという意味で言えば、株式のカテゴリーに入れてしまったほうがすっきりすると思う。

- ここまでオルタナを組み入れているところが出てきているので、本来的には基本ポートフォリオをつくるときには、やはりオルタナティブという区分を1個入れてつくるべきかと思う。
 - バリューアッド戦略は、運用者の力量がすごく問われる分野ではないか。2008年の危機では、マネジャーによって明確に運命が分かれた。
 - 投資対象の拡大はいいとしても、運用者のチェックは十分にやっていただきたい。
- (3) 伝統的資産に係るマネジャー・ストラクチャーの見直しについて
- 4資産の枠組みがあるので、難しいことなのだと思うが、最近、企業年金ではグローバル債券、グローバル株式という2つのアセットクラスの枠組みで、というところが進んでいる。公的年金の性格を考えると現実的ではないが、マネジャー・ストラクチャーの段階で、例えばグローバル株式を盛り込むというのは難しいものなのか。

以上